



深江中学校だより

令和4年9月27日

第8号

文責：校長 黒岩 洋史

【学校教育目標】 ～社会に貢献できる 人間性豊かで しなやかな 生徒の育成～
【スローガン】 時を守り 場を清め 礼を正す

183名！

今年度、深江中には183名の生徒が在籍しています。右の表は、今年度を基準として、5年置きに前後の本校生徒数の推移を表したものです。

平成24年度 (10年前)	平成29年度 (5年前)	令和4年度 (今年度)	令和9年度 (5年後)	令和14年度 (10年後)
255名 (+72名)	227名 (+44名)	183名 (±0)	180名 (-3名)	170名 (-10名)

ご覧になられていかがでしょうか？今後の生徒数は、転出入等で多少の変動はあるかもしれませんが、5年前・10年前と比較して5年後・10年後はそれほど減少しない見込みで、2年後の令和6年度は、200名を超える予定です。よくよく考えてみると、南島原市では、町内に3つの小学校（馬場分校・諏訪分校を含むと5校！）があるのは深江町だけです（加津佐・有家・布津には小学校が2校ずつ、他は町内1校ずつ）。話では、市内8町のうち、西有家・北有馬・南有馬・口之津・加津佐は、今後の小・中学校の児童・生徒数の減少が著しいとのこと…。「地域の子供たちが少なくなると寂しい…」とよく言われます。子供たちの元気な声が地域のあちこちから聞こえ、いつまでも活気のある深江町であり続けて欲しいと願っています。

「島原更正保護女性会」から時計を4個寄贈していただきました！

「島原更正保護女性会」は、青少年の非行防止や健全育成等により犯罪のない明るい社会の実現に寄与することを目的とした有志女性のボランティア団体で、その活動の一環として「愛の基金」から学校等へ毎年5万円相当の品物を寄贈されています。今年度は本校が選ばれ、9月26日（月）にご来校いただき、品物を受け取りました。ありがたく頂戴し、大切に使用させていただきます。ご厚意に感謝いたします。



生まれ変わっても教員に…

ある保険会社が、全国2,000人の教員を対象に、今年6月にインターネットで行った調査の結果が公表されました。調査の中に、「生まれ変わったら就きたい職業」の項目があり、「教員」と答えた割合が最も高かったことが分かりました。今の学校の先生方は、生まれ変わっても教員として働きたいと考えている人が最も多いということになります。（ちなみに、2位が「医師」、以下「大学教授・研究者」「プロスポーツ選手」「公務員」の順でした）教員の「ブラック勤務」が叫ばれていますが、それでもこのような結果になる一つの要因として、「教員」という仕事の「やりがい」があると思います。同じ調査で、「教員としてのやりがいを感じるのはどんな時か」との質問では「1位 子供の成長が感じられた時」「2位 子供の笑顔を見た時」「3位 子供と感動を分かち合えた時」という結果でした。多忙な中でも、それに勝るやりがいがあるからこそ、このような結果になっているのだと感じます。本校の先生方に目を向けると、やはり時間や労を惜しまず、子供たちのために頑張ってくださっている先生方ばかりです。全国的な「教員不足」の課題がある中、「学校における働き方改革」も進められています。私自身、深江中から一人でも多く教員を目指す生徒が出てきて欲しいという思いはありますが、お子さんが将来、教員を目指すかどうかは別として、「教員」という職（「教員」と言っても色々な種類や職名があります）について、一度ご家庭でも話題にされてみてはいかがでしょうか？

